

第 2 層生活支援コーディネーターの配置について

現在の「地域包括支援センターの担当圏域」を単位とし地域特性の異なる 3 つのモデル地区を設定する。

- (1) 市街地：高齢者から若年者まで人口構造が多様な地域。

ふたば包括担当地区をモデル地域とする。(效範・水南)

人口：29,386 人

高齢者人口：7,222 人（高齢者人口率 24.6%）

第 1 層コーディネーター分析

マンションや新興住宅が多く、新旧の住民が混在する地域。そのため、昼間独居やひとり暮らし高齢者の問題、近隣との付き合いの希薄化を感じていることから、つながりや交流の場作りや住民へ的高齢者理解・認知症理解の啓発・学習会、元気なうちから活躍することや見守り・声掛けの必要性を感じる声が聞かれる。また、買い物は、地域内に店舗があるものの、移動手段が確保されなければ容易ではない地域もある。

地域力活動

【效範女性会・效範連区地域力向上委員会】

高齢者の交流を促進する場として「ご近所交流サロン」を立ち上げ、現在 3 2 町内中 2 4 町内で開催している。

地区社協活動

【效範】：ご近所交流サロン、ふれあい会食

【水南】：いきいきサロン、囲碁将棋を楽しむ会、80 歳一人暮らし誕生月プレゼント

包括自己分析

人口 29,386 人。高齢者数 7,222 人。他地域と比較して人口も高齢者数も最も多い。高齢化率は 24.58%で市平均 28.64%を下回っている。市役所、公立陶生病院が地域内にあり、その他の公共施設、病院、お店など旧瀬戸街道に沿って点在している。大変恵まれた環境ではあるが、旧瀬戸街道から一歩中に入ると、道幅の狭い坂道が多く、外出を妨げる要因となっている。老人クラブ、公民館活動、自治会などの取り組みも活発に行われており、移動さえできれば、さまざまな活動に参加できる状況である。介護保険の在宅サービス提供事業所や入所施設の数是他地域に比べて多くはないが、多種の事業を展開するウィローふたばの存在がこの地域の強みとなっている。

2 層コーディネーターに求められる役割

自治会、地域力、地区社協等の地域団体の活動が活発であることから、各地域で取り組まれている高齢者に関する活動について把握し、特色あるサロン事業や敬老事業など先進的な取組みについて他地域への波及を視野に入れたモデル事業として育成を支援する。また地区公民館における生涯学習活動も盛んであるため、高齢者支援につながる教室の開催や、高齢者の生きがいの創出についての支援も求められる。社会的資源が比較的豊富な地域であると考えられるため、それらの資源を有効に活用し、地域課題の把握と課題解決に向けての活動を支援し、他の地域に先駆けた新しいサービスを創出することが求められる。

(2) 山間地域：高齢者にとって交通アクセスが不便な地域。

包括しなの担当地区をモデル地域とする。(東明・しなの)

人口：14,353 人

高齢者人口：4,706 人（高齢者人口率 32.8%）

第 1 層コーディネーター分析

店舗・病院が少ない・公共交通が不便などから、買い物や移動についての課題が多く、住民同士のつながりや増加しているひとり暮らし高齢者への安否確認や声掛けの必要性、空き家の活用などの交流の場づくりなどからのつながりの構築が求められている。また、ひとり暮らし高齢者のちょっとしたお手伝いを行うおたすけ隊や生きがい・特技を活かせる場づくりなど、住民同士の支えあいの必要性を感じる地域である。

地域力活動

【品野台地域力（高齢者支援 G）】

地域の高齢者の親睦、健康保持を目的にグラウンドゴルフ、カラオケ、料理等の各種大会や教室、親睦旅行を開催している。

【掛川地域力向上委員会（高齢者支援 G）】

高齢者に対する庭の除草や剪定等の簡単な生活支援を行う「お助けたい」を組織している。

地区社協活動

【東明】：ふれあい会食、一人暮らし高齢者訪問

【品野】：いきいきサロン、ふれあい会食

包括自己分析

本市の東に位置しており、本市の中で、一番大きな面積の圏域となっている。その多くは山間部である。瀬戸市の高齢化率が 28.6%に対し下品野地区が 28.9%、品野地区が 39.5%、東明地区が 34.7%と高齢化が進んでいる。生活圏は、定光寺町、下半田川町が高蔵寺、下品野地区は品野、東明地区が瀬戸市街と分かれている。介護事業所も他地域に比べ選択肢が少ないのが現状で多治見市

の事業所も利用している。交通機関もバスのみで、定光寺地区は、利用者が少ないのでコミュニティバスもなくなった。圏域にスーパーは 1 件しかない。買物や受診等日常生活は、車がないととても不便であるため、高齢ドライバーが多いのも特徴といえる。下品野地区に関しては比較的家族が近くに居る高齢者が多い。

2 層コーディネーターに求められる役割

担当面積が広大でかつ山間地域が多く、交通アクセスや買物等の不便さ、医療機関や介護事業所の少なさ等、高齢者に関する課題の多い地域であるため、個々の課題の把握と解決に向けた活動の支援が早急に求められる。地域内には住民同士のコミュニティが盛んな地域もあり「お助け隊」が組織され活発に活動している地区もあるので、既存の団体の活動を元にした新しいサービスの創出を検討するとともに、活動を維持するための担い手養成についても支援が求められる。また平成 31 年 4 月に下品野地域交流センターが完成する予定であり、センターのソフト・ハード両面において高齢者の活動する場の確保に向けた支援や調整も求められる。

- (3) 旧市街地：交通アクセスは良いが、困難な問題を抱える高齢者が多く居住する地域。

包括中央東担当地区をモデル地域とする。(道泉・深川・古瀬戸)

人口：9,933 人

高齢者人口：3,610 人（高齢者人口率 36.3%）

第 1 層コーディネーター分析

旧市街地で、以前は商店街を中心ににぎわいがあったが、現在ではシャッター街になり、高齢者の割合が増加している地域。そのため、徒歩圏内に店舗が無く、坂道が多い地形のため高齢者の買い物に対する課題が多い。また、困りごとを相談するところが分からない、ひとり暮らしの方や男性高齢者が出かけない、高齢者を見かけないなど、つながりが薄いことなどから、出かけるための交流や気軽に相談できる居場所づくりが必要である。

※少子化も進んでおり圏域内の小中学校の統廃合が予定されている。

地域力活動

【道泉地域力推進協議会（高齢者支援 G）】

高齢者の外出機会の増加、健康増進、仲間づくり等を目的に講座と交流会をセットにした「井戸端会議」を開催している。

地区社協活動

【道泉】：いきいきサロン、ふれあい会食、介護予防教室

【深川】：いきいきサロン、ふれあい会食

【古瀬戸】：ふれあい会食

包括自己分析

道泉、深川、古瀬戸の3連区全体の高齢化率は36.3%であり、対前年度比は-0.6%だが、深川連区の高齢化率は43.1%、平均年齢55.1歳と瀬戸市内でも最も高くなっている。浴室のない自宅、老朽化した自宅、長屋が多く、低所得者やケアのいない方が多いため、支援には困難を要するが、近隣住民や民生委員との繋がりや見守り体制が構築されている。古瀬戸地区には新たに、住宅型有料老人ホームが建設され、住民との関わりが期待される。

深川、古瀬戸地区では新興住宅ができ、若い世代の増加が見込まれ、地域力向上に繋がるのではないかとされる。

クリニックは地域と密着しており、急な往診や相談にも柔軟に対応して下さっている。

2層コーディネーターに求められる役割

高い高齢化率と高齢者だけの世帯が多い地区である。第1層コーディネーターの分析にもあるように、高齢者が出かけるための交流の場や居場所づくりが必要である。そのため既存のサロン活動やふれあい会食をより充実させるための支援や、それらの活動を支える担い手を発掘、養成することが求められる。また地域内に複数ある商店街など、活用することが期待できる資源を把握し、新しいサービス創出に向けたネットワークの構築も求められる。